

備前市事務事業評価表

事務事業名	定時制高等学校管理運営事業	コード	担当課係
		03-01-03-01	教育総務課庶務係
事業実施期間	平成17年度～	担当者	担当係
		電話	0869-64-1802
総合計画 事業（政策）体系	大項目	地域文化と人が輝くまちづくり	
	中項目	未来を支える人材を育むまちづくり	
	小項目	高等学校	
	施策	特色ある学校づくりの推進	

事業について	
目的	働きながら学ぶ青少年等の高校教育を受ける機会を保障するため、地域や学校の実態、生徒や学校の特性を考慮し、教育課程を達成できるよう管理運営を行います。
対象 (誰のために)	岡山県備前市立片上高等学校生徒
内容	定時制高等学校の教育活動のために使用する消耗品、光熱水費、備品整備等の経常経費の支払、事業用の備品等の整備や建物・施設の修繕を行います。

事業の結果			
実施項目	17年度		
	回数など (単位)	回数など (単位)	回数など (単位)
管理運営校	1校		
就学生徒数	87人		
定員数	160人		
管理運営費	8,080千円		

事業費 (単位：千円)	事業費		財源		事業費		財源	
	直接事業費	4,062	国庫補助金等		直接事業費		国庫補助金等	
	人件費	13,775	受益者負担	958	人件費		受益者負担	
		市債		市債		市債		
合計	17,837	一般財源等	16,879	合計	0	一般財源等	0	

必要人員	2.55	人		人
------	------	---	--	---

結果指標①	結果指標名	就学生徒数	
	結果指標量	87	
	単位	人	
	対前年比	—	0.00%
	事業費	17,837,000	円
	単位当たりコスト①	205,023	円

結果指標②	結果指標名	給食関係人件費	
	結果指標量	2	
	単位	人	
	対前年比	—	0.00%
	事業費	4,017,080	円
	単位当たりコスト②	2,008,540	円

事業の成果			
成果指標名	定員充足率	式又は説明	入学生徒数の増加を進めることで、経常経費の効率的な運用を図るため、定員に対する在校生の割合を指標とします。 在校生÷定員(160人)
	17年度		
成果指標量	54%		
対前年比	—	0.00%	
到達目標値	60%	到達目標年度	毎年度

事務事業の評価		(平成17年度事業)	
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である <input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等：学校教育法第1条、2条、4.4条ほか	課題認識 高校進学率の向上により、働きながら学ぶ生徒が減る一方で、全日制の中途退学者が増加しており、勤労青少年の教育機会の保障から、学校になじめなかった青少年にも教育機会を与えるといったように、様々な志望動機を持った入学者が増えていきます。また、入学者の増加もその現象がみられ、その変化に対応した運営を検討する必要があります。
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	
	市民ニーズの妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input checked="" type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である	
効率性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input checked="" type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である	授業料は、勤労学生を想定したものとされており、在校生の状況により検討が必要。また、給食の提供についても、利用者の動向を見極め、存続を含めた検討を要する。
	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	
	手段の最適化	<input checked="" type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input checked="" type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	
有効性の評価	職場の効率化	<input checked="" type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	県東部では唯一の定時制高校であり、存在意義は大きく、効率的な運営を図るとともに、生徒の増加を図る必要がある。
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input checked="" type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	
	成果向上の可能性	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	
市民参画度		<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	

総合評価	
コメント	効率的な運営を図るためには、生徒の増加が必要であるが、現在定員割れをしている現状から、当面定員の6割を目標に生徒増に努める。入学生徒の変化を踏まえ、学校の特色を創作していく必要がある。
評価区分	<A~E> C

今後の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する <input type="checkbox"/> 完了・統合		
翌年度結果指標量①	生徒数	結果指標量②	給食関係人件費
目標値	成果指標量	60%	

改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果
効率性	給食は、パン、牛乳の夜食のみとし、調理は廃止の方向で検討する。	平成19年度	パート職員1名の人件費が削減できる。
有効性	学校施設について備前緑陽高校の施設を時間帯で借り受ける。	平成19年度以降	教育環境の施設整備費が削減できる。ただし、使用料の算定が難しいとおもわれる。

事業の目的、対象、内容を考えながら目的の妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。